

# ご挨拶



■湘南鎌倉総合病院 院長 塩野 正喜

2015年の病院の歩みを報告いたします。

1月、形成外科 山下部長が行ってきたヒト幹細胞臨床研究「自己脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた乳癌術後変形に対する再建治療」が終了し、新法に則った再生医療の提供開始が記者会見され、診療がスタートしました。

2月、2014年9月に開始されたヘリコプター救急搬送が50件に達しました。

3月13日にビル免震工事における免震ゴム不正工事が発覚、当院には275基の不正ゴム使用が公表され、その対応につき、工事会社、東洋ゴムとの話し合いがもたれ、免震ゴムの取り替え工事が話し合われました。神奈川県からは県ガン診療連携病院の指定、災害時派遣の神奈川DMATL指定を受け、地域医療の中核病院としての機能が認められました。

4月1日の新入職式には196名の入職がありました。小児科医師の退職に伴い、4月からは小児科入院ができなくなり、NICUも閉鎖されました。4月25日に、ネパール連邦民主共和国の首都カトマンズでマグニチュード7.8の地震が発生、TMATとして当院からは隊長 河内 順 外科部長、浅野 昌子 看護師、国際医

療支援室の石田 亜沙子が参加、被災患者さんの診療に当たりました。また、外傷外科患者さんの増加に対応すべく、地下に専用手術室3室を増設、常時緊急手術応需体制をとれるようになりました。

5月12日、文部科学省「科学研究費補助金取扱規定に規定する研究機関」指定を頂きました。

7月8日、病院エントランスの植樹に対し屋内緑化コンクール会長賞が授与されました。

当院は女性医師が働きやすい病院評価ホスピレートを取得していますが、女性常勤医師23.4%、非常勤も含めると全体で27.3%と多くの女性医師が働いています。医師、看護師などの女性職員が子育て中も安心して働けるように病院に隣接した「なかよし保育園」を開いていますが、年々利用者が増え、100人規模では足りなくなることから120人規模の保育園を新築移転する計画、同時に手狭になった救急救命センターや外傷センターの拡充を図ることになり、病院敷地に隣接していた特養愛の郷、なかよし保育園を県フラワーセンターの隣に新築移転しました。

9月28日から10月5日の間、3年前の初回審査よりさらに厳しいJCI更新審査を受け、10月14日再認証を頂きました。

11月にはハラール認証を宗教法人日本イスラーム文化センターより取得、イスラム圏の入院患者さんにも対応できる食事提供が可能になりました。

また、ジブチ共和国から徳洲会が経営をサポートする新病院建設が始まり、医師・看護師・助産師・リハビリ技師・放射線技師が1か月研修に来院しました。なお、社団法人徳洲会は2013年11月に鈴木隆夫新理事長のもと、新執行部が①ファミリー支配からの脱却、②メディカル法人との取引透明化、③自浄能力の発揮、④法人としての政治活動・選挙活動との決別を掲げ、改善に努力してまいりましたが、関係機

関との話し合いが進み、外部委員を入れた第三者機関がチェックする体制が始まり、ガバナンス強化、コンプライアンス遵守、医療機器、薬剤、消耗品購入機能の株式会社からの移転、透明化が進行中で、ファミリーの関与ができない体制が確立いたしました。

湘南鎌倉総合病院は、湘南の地の地域中核病院としての体制・診療強化を図り、全ての患者さん・住民の為の病院として、今後更なる努力を尽くして参る所存です。御指導の程よろしくお願い申し上げます。